

(1) 出題方針

国語の出題は、現代文一題、古文一題の形式を取ることが多いが、昨年度は現代文二題の形式を一つ出題した。現代文二題の場合でも、現代文一題の場合と同程度の分量・難易度となるようにした。現代文・古文ともに、文章を読んで選択肢で解答する設問が5~6問と、記述式の設問が1問である。記述式は現代文が40字、古文が30字で答える形式となっている。配点は現代文90点、古文が60点であり、試験時間は75分である。これらの構成は、例年ほぼ同じものである。

現代文は、いずれの日程でも論説の文章(随想風のものも含む)から出題しており、例年の傾向を踏まえている。論説で取り上げる素材は、文学・文化・美術・社会学・自然科学など多岐にわたる。文章の長さは、6000字前後程度のもので、比較的長文といえる。

大学では、専門的な学術研究を行うために基本的な読解力を身につける必要がある。大学での学びは、定められた教科書の学習ではなく、多くの分野の文献を読み、それらを理解し、まとめて、自分の研究に活かす形をとることが求められる。そのためには文章の分野を問わず、さまざまな文献から情報を吸収できる素地が必要となる。したがって、比較的長文の読解を通して、その力量を判定したいと考えている。長文の文章全体からの的確にポイントを読み取る能力や、反対に細部の意味を把握する能力を確かめたい。

古文は、上代から近世までの文献から、説話・物語・随筆・日記などのさまざまな分野から出題している。文章の長さは、800字~1200字程度である。著名でないものからの出題もあるが、内容は明確なものを選んでおり、難問にならないよう十分に配慮している。

大学では、各分野の研究において古典的な文献の読解も求められる。その意味で古文の読解力は、大学での学術研究においても必要なものといえる。そのための能力を高校での古文の学習を通して身につけているかを確認するのが、試験の目的である。

現代文・古文ともに、語句の表現や文脈を正しく理解しているか問うことを重視している。選択肢の設問では、語句の知識を踏まえて、文脈の要点となる箇所を質問している。記述式の設問では、文章全体を的確にまとめ文章化することを求めている。

(2) 解答状況および解説

設問の順序は、おおむね、接続詞や個々の語句の理解に関わるものからはじまり、次に文章の展開を踏まえたもの、そして全体をまとめたものへと続き、最後にそれまでの設問内容を押さえつつ全体の内容をまとめる記述式設問が配列されている。このような配列は、きちんと本文の内容を把握してもらうためのもので、基本的に例年同様になっている。選択肢設問では、「奇問」といわれるようなものは出題しない。的確な読解によって、しっかりと解答できるようにしている。したがって、合格者の平均得点率は高く、現代文で80%程度、古文で75%程度が、ここ数年の傾向といえる。

現代文の設問では、接続詞の挿入などはきわめて正解率が高い。確実に文脈の続き具合を把握して解答してほしい。正解率が低い傾向は、やはり文章全体あるいは広範囲にわたる内容の要旨をまとめる設問である。論旨のポイントをしっかり押さえることが不可欠といえる。また、各日程において、文章の内容に合致するものを一つあるいは複数選ばせる設問を出題することも多い。選択肢とそれに対応する本文中の文章を十分比較検討し、的確に判断してほしい。

古文では、語句の解釈に関わる設問が出題される。辞書的な語句の意味では正解率がもちろん

高いのだが、文脈を踏まえた語句の解釈を求めると正解率が急に落ちてしまう。基本語句の習得に加え、文脈を把握する能力も求めている。また、和歌が絡んだ設問の場合も正解率が低くなる傾向が見える。和歌の技法も踏まえ正確に解釈する能力を養っておいてほしい。

記述式の設問では、文章全体から重要な内容を、現代文なら三つ程度、古文なら二つ程度を踏まえて、文章としてまとめあげる必要がある。目立った誤答としては、内容の一部しか含まないものや、設問の語句を単に引用しただけのもの、解答文としてまとまりがないもの、文脈がねじれてしまっているものが多い。また、誤字・脱字などの不備は、減点対象となるので注意してほしい。字数を超過しても 0 点にはならないが、大きな減点となる。最後に、全体的なニュアンスが合っているだけでは、高い得点には繋がらないので、特に注意してほしい。

(3) 受験生へのメッセージ

現代文では、日頃からさまざまなジャンルの文章を積極的に読み、比較的長い文章にも慣れておいてほしい。設問として出題する文章は、内容のあるものを選んでいく。正確に論理展開を把握できれば、全体の要旨をきちんと理解できる。文章のキーワードを見つけ出し、それを用いて全体の要旨を 40 字でまとめるトレーニングは有効である。

古文では、基本的な古語・文法の意味をきちんと理解しておくことがまず大切である。なお、漢文も融合問題の一部として出題される可能性もあるが、その場合、難問にならないようにきちんと配慮している。

現代文・古文とも、奇をてらうことなく、十分に練った設問を用意している。存分に、実力を発揮してほしい。

◆国語◆ 出題の意図

102	出題の意図
一	食文化における聴覚や音の役割について述べた文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、現代社会における食と音との関係を筆者がどのように捉えているか、文章化することを求めた。
二	中世の説話集から、生け捕りにされた武士の処遇について語った文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、主人公の行動について具体的に文章化することを求めた。
103	出題の意図
一	筆者が和歌に接した経験をふまえ、和歌の歴史や性質について述べた文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、筆者が主張する和歌の最も重要な性質について文章化することを求めた。
二	中世の説話集から、天皇の加持祈祷に参上した法師の素性が明かされる場面を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、この場面における出来事の結果を具体的に文章化することを求めた。
104	出題の意図
一	倉庫の歴史や役割、現代社会における倉庫の位置づけについて述べた文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、都市における倉庫の比喻を具体的に文章化することを求めた。
二	中世の軍記物語から、天皇の徳について語った文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、天皇がどのような人物として語られているか、具体的に文章化することを求めた。
105	出題の意図
一	メディアの歴史や性質、その延長上に生じたジャーナリズムについて述べた文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、活版印刷とジャーナリズムとの関係について文章化することを求めた。
二	中世の歴史物語から、雅楽の名手と弟子との関係を表した場面を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、本文中の指示語が表す具体的内容について文章化することを求めた。
106	出題の意図
一	建築の設計に CAD と呼ばれるコンピュータ・システムが導入されたことによって生じた変化について述べた文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、その変化を具体的に文章化することを求めた。
二	江戸時代初期の孝子説話集から、父親に対する娘の孝について説いた文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、その孝の具体的な内容を主語や理由を明確にした上で文章化することを求めた。

107	出題の意図
一	デモクラシーの時代における人間や芸術の変化について述べた文章を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問うことで読み解く力を確認した。
二	現在再考されつつある人間と他の生物との関係の中で、創造やデザインがどうあるべきかについて述べた文章を出題した。全体的な内容把握と、今後のデザインのあり方を具体的に文章化することを求めた。
三	中世の擬古物語から、帝と、入内する姫君、それに付き添った女房との関係が表された場面を出題した。基礎的な知識、文脈の理解等を問い、最後に、この場面に対する作者の評価を具体的に文章化することを求めた。